

諏訪の景気動向

平成27年11月

(平成27年 10 月末 D・I調査)

平成27年 11 月 30 日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏 訪 信 用 金 庫

諏訪地方の景気動向（平成 27 年 10 月末調査）

「平成 27 年 10 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 201 社のご協力を得て行った平成 27 年 10 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは△6.0 となり、前回調査時(平成 27 年 7 月末、以下同)の 10.4 から、16.4 ポイント悪化した。製造業の業況判断DIは△11.6 で、前回の 6.2 から 17.8 ポイント悪化した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは 6.3 で、前回の 19.7 から 13.4 ポイント悪化した。「3 ヶ月後」の業況予想DIも製造業が△2.9(前回 5.5)、非製造業は△4.8(前回 10.6)と、いずれもマイナス水準となった。回答全社では△3.5(前回 7.1)となり、総体的に景況感は、改善傾向が続いていた前回から後退している。

今回は TPP に関するヒアリング調査も行ったところ、参加国と関係がある一部企業で積極的な取り組み姿勢が見られたが、多くの企業は今後の動向を注視する姿勢となっている。

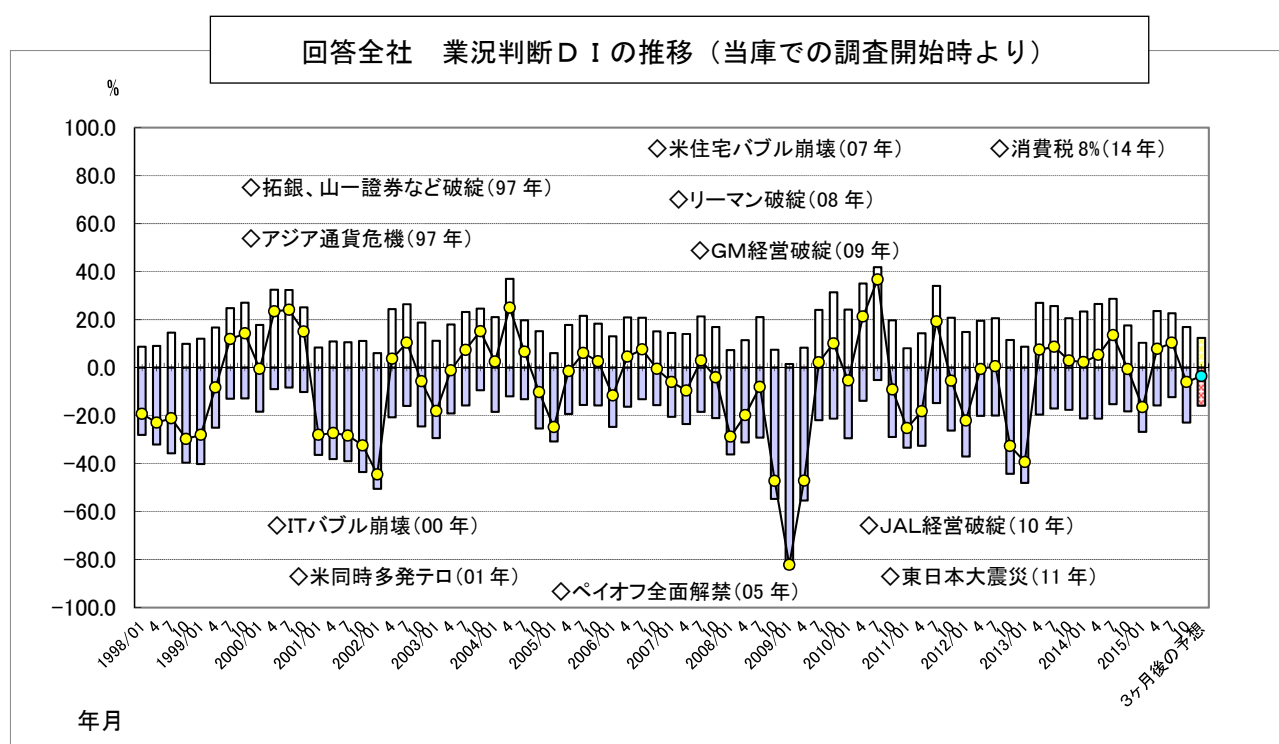
製造業の業況判断DIは、「3 ヶ月前」比で△11.6と前回調査時の 6.2から悪化し、「前年同期」比も△18.1で、前回の 9.6 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想も△2.9 で前回の 5.5 より悪化した。受注状況DIは「3 ヶ月前」比で△14.5と前回の 5.5から悪化、「前年同期」比は前回の 9.0から△18.9へ悪化し、「3 ヶ月後」の予想も前回の 0.0から△7.3へ悪化している。また、収益性DIは「3 ヶ月前」比が前回の△1.4から△19.0へ悪化幅が広がり、「前年同期」比は△6.9から△26.3と悪化した。「3 ヶ月後」の予想は前回の 0.7から△14.5と悪化した。ただ、円安による原材料高などで費用負担の上昇を感じる企業は、前年同期に比べ 26.1%(前回 42.1%)と減少し、「3 ヶ月前」との比較でも 15.2%(前回 29.0%)と減少し、上昇後の横ばい状態になりつつある。「3 ヶ月後」に費用負担の上昇を予想する企業は 8.0%(前回 15.2%)で、横ばい予想が 85.5%となっている。

商業は、業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて 6.5 で、前回の 0.0から改善している。「前年同期」比でも 29.0 と、前回の 12.5 から改善している。ただ、客単価DIは「3 ヶ月前」比で前回の 3.1から△16.1へ悪化した。来店客数DIは「3 ヶ月前」比はほぼ同率で、「前年同期」比では 3.2と前回の△3.2より改善している。「3 ヶ月後」の業況予想DIは 9.7 で前回の 3.2 からやや改善している。収益性予想DIも 12.9 で、前回の 3.1 より好転予想の企業が増えている。一方、パートを含む労働力DIは「3 ヶ月前」比で△3.3(前回 3.1)、「前年同期」比で△9.7(前回 3.1)で減少傾向となっている。自動車販売は、諏訪地方の 10 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 931 件で、前年同月比では 28 件減少(△2.9%)した。わずかながらではあるが、2 ヶ月連続の減少となった。

観光・サービス業は、夏の観光シーズンのピークだった「3 ヶ月前」と比べると、業況判断DIは 5.9 と、前回調査時の 68.8 から悪化した。宿泊客数DIや客単価DIも悪化しているが、「前年同期比」では、業況判断DIは 52.9、宿泊客数DIは 47.0、売上DIも 47.0 と、好転した企業が多い。ただ、仕入れ材料などの費用負担はほとんどの企業が前年より上昇したとしている。冬期になる「3 ヶ月後」は季節要因もあり、業況予想DIが△29.4、宿泊客数予想DIは△41.1 と悪化している。客単価予想DIも△23.5 と前回の△6.2 から悪化している。パートを含む労働力DIは「3 ヶ月前」比で△23.5(前回 12.5)と減少している。

建設業の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて6.6で前回調査時の11.1からやや悪化したが、「横這い」の企業が多い。「前年同期」比では△20.0で前回の△11.1から悪化幅が広がり、「3ヶ月後」の業況予想DIも△6.7で、前回の16.7より悪化している。売上DIは「3ヶ月前」比では13.4と前回の5.6より改善しているものの、「前年同期」比では△33.3と前回の△11.1より悪化した。受注状況DIは、「3ヶ月前」比は6.6で前回の0.0から改善しているが、「前年同期」比では△26.6と前回の△5.5より悪化し、「3ヶ月後」の予想も△6.6で前回の22.2から悪化している。諏訪地方の平成27年9月の新設住宅着工戸数は70戸で、前年同月比12戸減少(△14.6%)した。平成27年4月～9月の累計着工戸数は541戸で、前年同期比12戸増加(2.3%)した。平成27年10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は12件179百万円だった。また、市町村からの受注工事は合計87件、654百万円で、前年同月比22件、103百万円減少した。

雇用状況は、平成27年9月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.19ポイント上回り、前月を0.02ポイント上回る1.33倍となった。一昨年6月から28ヶ月連続で前年を上回っている。1倍台は昨年4月に回復して以来、18ヶ月連続となった。長野県は1.26倍、全国は1.24倍で、全国は23年8ヶ月ぶりの高水準を維持し、長野県は7ヶ月ぶりに前月比で低下したものの、15ヶ月連続で全国平均を上回っている。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,529人で前年同月比78人増加(5.4%)した。このうち、正社員求人は前年同月比7.2%増、前月比3.8%減の550人となった。新規求職者数は813人で前年同月比264人減少(△24.5%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、飲食店・宿泊業で50.6%、建設業で14.1%増加し、運輸業で40.4%減少した。求人の要因別では「欠員補充」「業務量増大」が増加し、「継続する人員不足」「創業・新分野展開」が減少した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は27人で、前年同月より50人減少し、前月より57人減少した。



業況判断DIの推移「3ヶ月前と比較して」

回答全社(201社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が16.9%、「横這」企業が60.2%、「悪化」企業が22.9%で△6.0と、前回調査時の10.4から16.4ポイント悪化した。前回に比べて、製造業は、「好転」企業が17.9%から14.5%へ減少し、「悪化」企業が11.7%から26.1%へ増加した。非製造業は、観光の季節要因はあるものの、「好転」企業が前回の33.3%から22.2%へ減少し、「悪化」企業は13.6%から15.9%へ増加した。円安に伴う商品価格の値上げが一段落してきた商業には、やや落ち着きが見られるが、そのほかの業種は、好調を持続する企業がある一方で、横這いや悪化の企業が増加しており、総体的にはこれまでの改善傾向から一転して、3ヶ月前より悪化傾向となっている。

産業別業況表

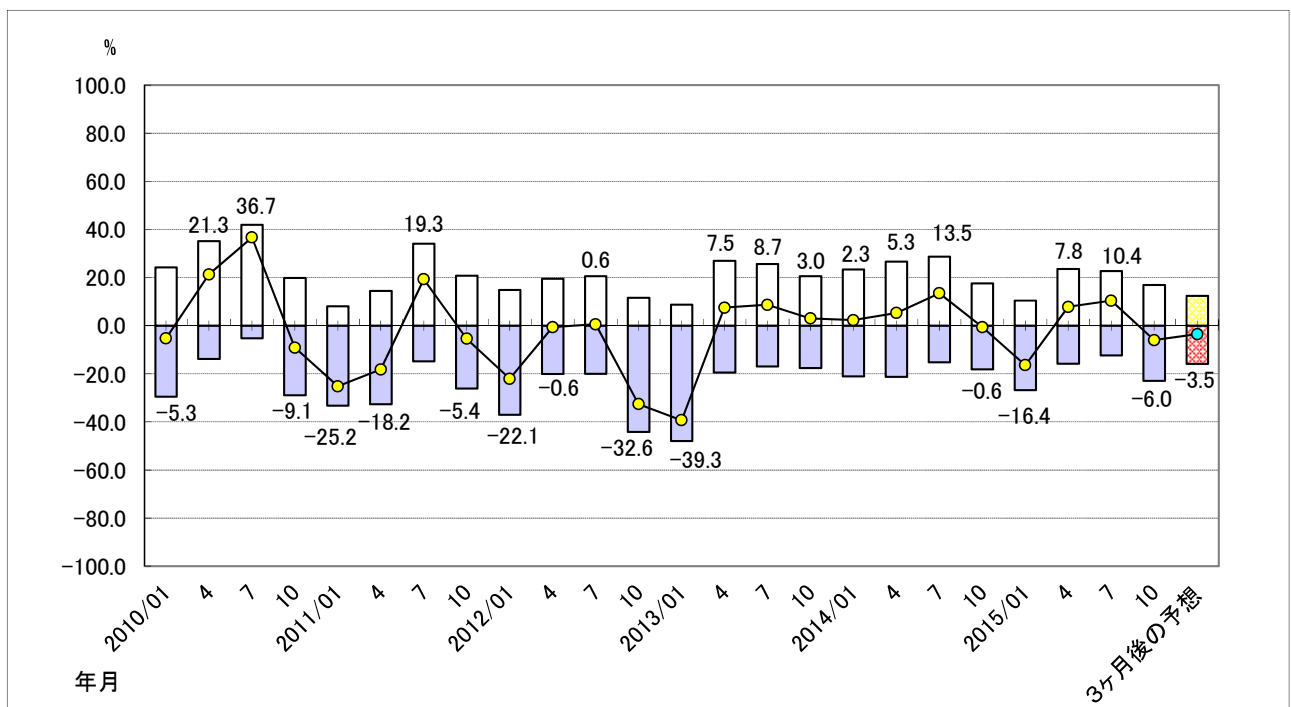
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	201	16.9	60.2	22.9	-6.0	201	22.9	49.3	27.9	-5.0	201	12.4	71.6	15.9	-3.5
製造業	138	14.5	59.4	26.1	-11.6	138	17.4	47.1	35.5	-18.1	138	12.3	72.5	15.2	-2.9
非製造業	63	22.2	61.9	15.9	6.3	63	34.9	54.0	11.1	23.8	63	12.7	69.8	17.5	-4.8
商 業	31	22.6	61.3	16.1	6.5	31	38.7	51.6	9.7	29.0	31	19.4	71.0	9.7	9.7
建設業	15	13.3	80.0	6.7	6.6	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	0.0	93.3	6.7	-6.7
観光・サービス	17	29.4	47.1	23.5	5.9	17	58.8	35.3	5.9	52.9	17	11.8	47.1	41.2	-29.4

自社業況判断DIの推移

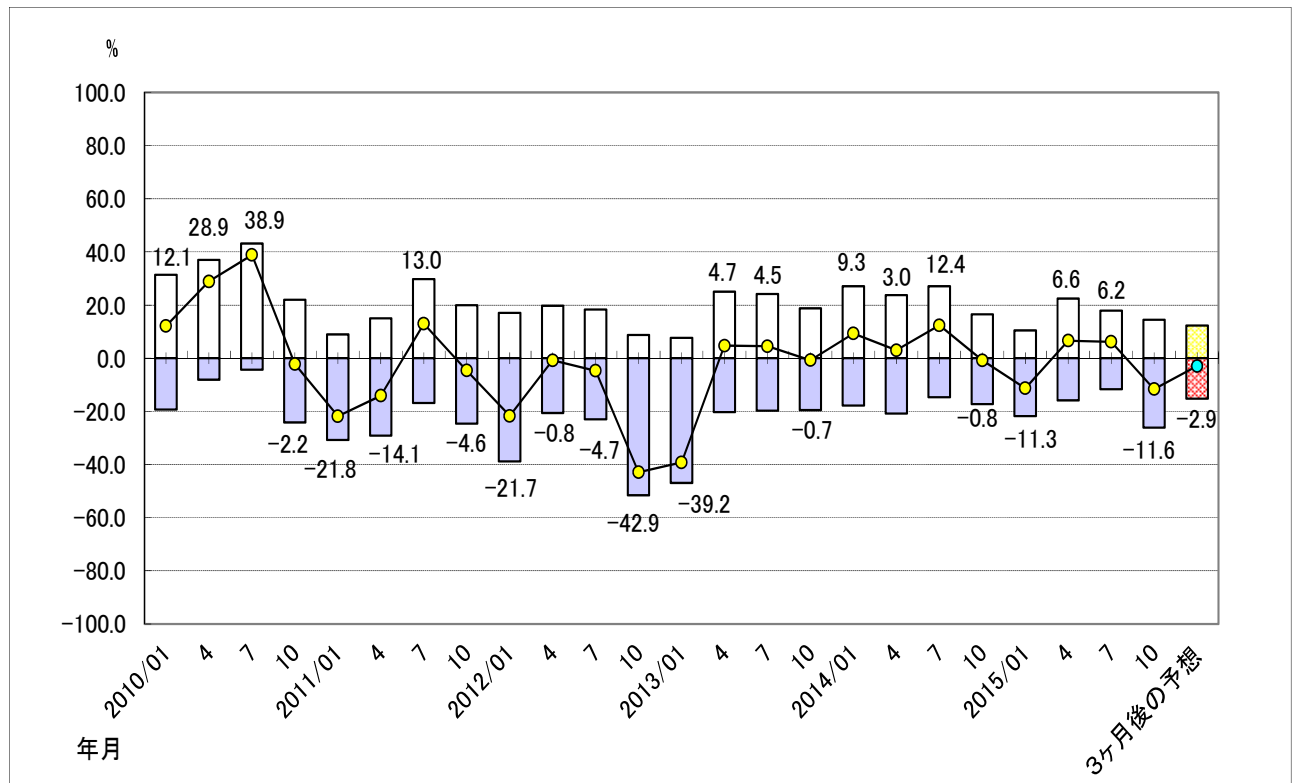
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



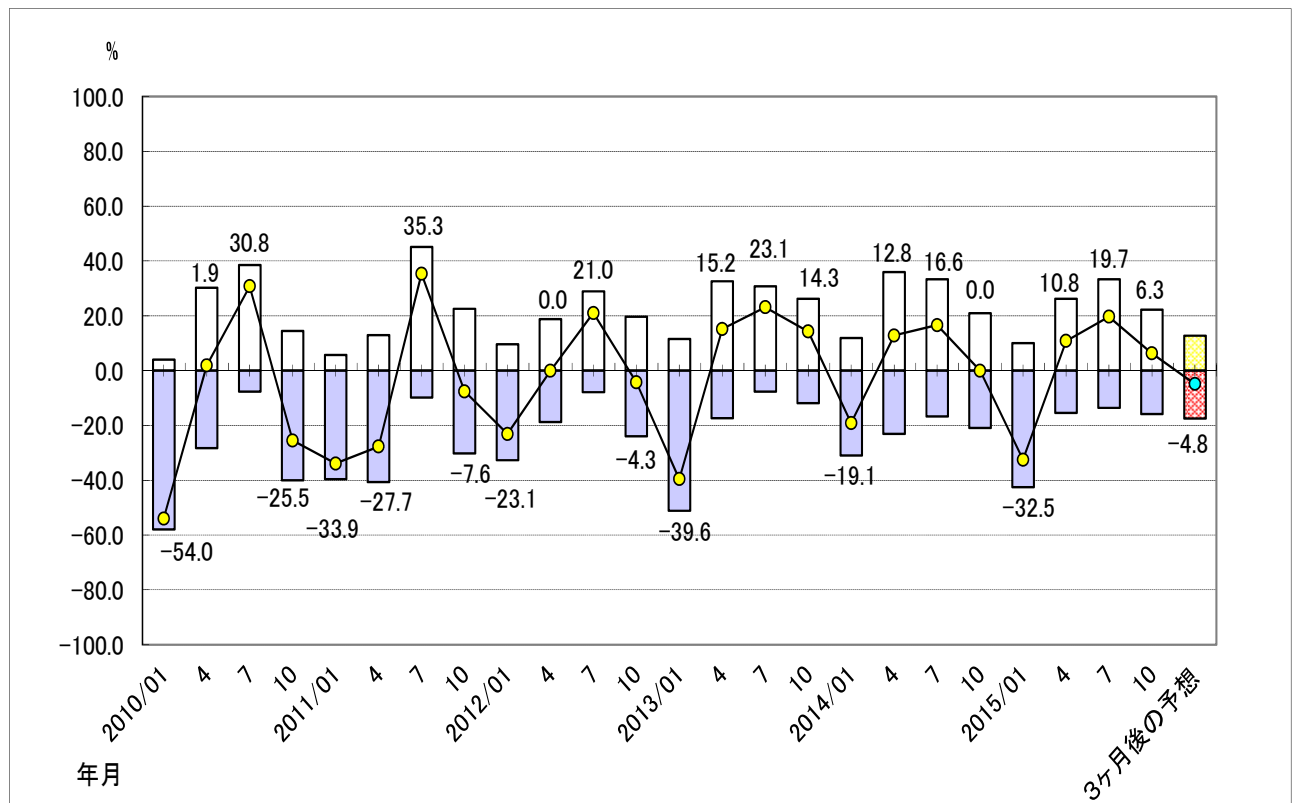
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△11.6と、前回調査時の6.2から17.8ポイント悪化した。「前年同期」比は△18.1で、前回の9.6から27.7ポイント悪化した。また、「3ヶ月後」の予想も△2.9で、前回の5.5から8.4ポイント悪化した。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて△14.5と、前回の5.5から20.0ポイント悪化した。「前年同期」比は「増加」企業が減って、「減少」企業が増え△18.9で、前回の9.0から27.9ポイント悪化している。「3ヶ月後」の予想DIは「好転」予想を「悪化」予想が上回り、△7.3で、前回の0.0から悪化している。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△19.0と前回の△1.4から17.6ポイント悪化した。「前年同期」比では前回の△6.9から△26.3へ19.4ポイント悪化した。いずれも水面下で厳しい状況が続いている。「3ヶ月後」の予想は△14.5で、前回の0.7より15.2ポイント悪化した。

稼働率DIは、「3ヶ月前」と比べて「上昇」が15.9%、「低下」が24.6%の△8.7となっている。「前年同期」比でも△7.2で、「低下」傾向の企業が上回っている。「3ヶ月後」の予想は横ばいの企業が多いが、△0.7で上昇見込みの企業が減少している

業種別(主要5業種)の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「金属製品」が△26.3(前回16.6)、「輸送用機械」は△6.2(同18.7)、「精密機械」が0.0(同18.2)、「電気機械」が△26.7(前回△17.8)、「一般機械」は△2.7(同14.6)とそれぞれ悪化した。「前年同期」比でも「輸送用機械」が△18.8(同△6.2)、「精密機械」が11.1(同36.4)、「一般機械」は0.0(同19.5)、「金属製品」は△42.1(同11.1)、「電気機械」が△30.0(同10.7)と全て悪化した。「3ヶ月後」の予想DIは、「輸送用機械」が△12.5(同18.7)、「金属製品」は0.0(同16.7)、「精密機械」が△11.1(同9.1)、「一般機械」が△5.3(同2.4)と悪化予想が上回り、「電気機械」は3.3(同△3.6)と好転予想が上回っている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
製造業		138	14.5	59.4	26.1	-11.6	138	17.4	47.1	35.5	-18.1	138	12.3	72.5	15.2	-2.9
規模	1～29人	77	11.7	62.3	26.0	-14.3	77	11.7	58.4	29.9	-18.2	77	9.1	72.7	18.2	-9.1
	30～99人	44	18.2	47.7	34.1	-15.9	44	25.0	29.5	45.5	-20.5	44	15.9	70.5	13.6	2.3
	100人～	17	17.6	76.5	5.9	11.7	17	23.5	41.2	35.3	-11.8	17	17.6	76.5	5.9	11.7
中分類	金属製品製造業	19	10.5	52.6	36.8	-26.3	19	5.3	47.4	47.4	-42.1	19	10.5	78.9	10.5	0.0
	一般機械器具製造業	38	18.4	60.5	21.1	-2.7	38	26.3	47.4	26.3	0.0	38	15.8	63.2	21.1	-5.3
	電気機械器具製造業	30	3.3	66.7	30.0	-26.7	30	10.0	50.0	40.0	-30.0	30	13.3	76.7	10.0	3.3
	輸送用機械器具製造業	16	18.8	56.3	25.0	-6.2	16	25.0	31.3	43.8	-18.8	16	12.5	62.5	25.0	-12.5
	精密機械器具製造業	9	33.3	33.3	33.3	0.0	9	33.3	44.4	22.2	11.1	9	0.0	88.9	11.1	-11.1

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中北米向けは堅調だが、分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△26.3で、前回調査時の16.6から悪化した。「前年同期」比は△42.1(前回11.1)で、5業種中最も悪化した。「3ヶ月後」の予想は0.0で前回の16.7から悪化した。主要取引先の中国での生産にブレーキがかかったり、在庫調整の影響を受ける企業がある。また、コストダウン要請もあり、収益確保が難しい企業も見られる。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△2.7で、前回の14.6から17.3ポイント悪化した。「前年同期」比でも0.0(前回19.5)と悪化している。「3ヶ月後」の予想は△5.3で前回の2.4から悪化している。取引先の状況によって繁閑まちまち。リーマン・ショック前を超える水準の企業がある一方で、主力取引先からの受注が大幅に減少した企業もある。北米向けは堅調だが、中国や東南アジア向けは低調な動きとなっている。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△26.7と、前回の△17.8からやや悪化幅が広がった。「前年同期」比は△30.0で、前回の10.7から大幅悪化した。ただ、「3ヶ月後」の予想は3.3で、前回の△3.6より改善している。好調な取引先からの受注が続く技術力が高い企業がある反面、中国経済減速の影響を受けている企業もある。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて△6.2で、前回の18.7から悪化した。「好転」企業が前回の25.0%から18.8%に減り、「悪化」企業が前回の6.3%から25.0%に増加した。「前年同期」比は△18.8で、前回の△6.2から悪化幅が広がった。「3ヶ月後」の予想は△12.5で前回の18.7から悪化している。自動車関連は大手メーカーの状況によって異なるが、総体的には低調な動きとなっている。VW問題で直接影響があった企業は少ないが、ディーゼル車市場の縮小を懸念する企業がある。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて0.0で、前回の18.2より悪化した。「前年同期」比は11.1で前回の36.4から悪化した。「3ヶ月後」の予想は、好転予想がなく、悪化予想の企業が前回の9.1%から11.1%に増加し、前回から悪化した。生産能力いっぱいの受注量の企業がある反面、取引先が中国経済減速の影響を受けたことなどで一部受注キャンセルがあった企業など、繁忙度合いに差が見られる。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人」規模は△14.3で前回の2.5から悪化し、「30～99人」規模も△15.9で前回の11.4より悪化、「100人以上」規模は11.7で前回の9.5から改善した。「前年同期」比は「1～29人」規模が△18.2で前回の5.0から悪化、「30～99人」規模が△20.5で前回の22.7から悪化

した。「100人以上」規模も△11.8で前回の0.0より悪化した。「3ヶ月後」の予想は、「1～29人」規模が△9.1で前回の△2.5より悪化し、「30～99人」規模も2.3で前回の11.4から悪化し、「100人以上」規模は11.7で、プラス水準ながら前回の23.8より悪化した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「増加」企業18.1%、「減少」企業32.6%で△14.5と、前回調査時の5.5から悪化している。「前年同期」比は前回の9.0から△18.9へ悪化した。「3ヶ月後」の予想も「増加」を「減少」が上回り△7.3で、前回の0.0から悪化している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△14.3で、前回の3.7から悪化した。「30～99人企業」は△25.0で、前回の9.1から悪化した。「100人以上企業」は11.7で前回の4.7より改善している。「前年同期」比では「1～29人企業」が△16.9で前回の3.7から悪化し、「30～99人企業」も△25.0で前回の18.2から悪化した。「100人以上企業」は△11.8で前回の9.5より悪化している。「3ヶ月後」の予想は「1～29人企業」が△13.0で前回の△10.0からやや悪化幅が広がり、「30～99人企業」は前回の6.8から△2.3で悪化した。「100人以上企業」も5.8で前回の23.8から悪化した。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」比は、「精密機械」が前回の54.5から△22.2、「輸送用機械」は12.5から0.0へ悪化した。「金属製品」は16.7から△21.0と悪化し、「一般機械」は前回の12.2から△13.1、「電気機械」は前回の△28.6から△26.7でほぼ横ばいとなった。「前年同期」比は「一般機械」が前回の19.5から△10.5、「電気機械」は7.1から△26.7、「精密機械」は36.4から△11.1、「金属製品」は11.1から△36.9、「輸送機械」は6.3から△12.5と総体的に悪化傾向となっている。「3ヶ月後」の予想は「一般機械」が△13.1で前回の△12.2からやや悪化し、「金属製品」も5.5から△5.2、「輸送用機械」は18.8から△12.5へ悪化している。一方、「電気機械」は前回の0.0から変わらず、「精密機械」は9.1から11.1へ改善している。

業種別・規模別受注状況表

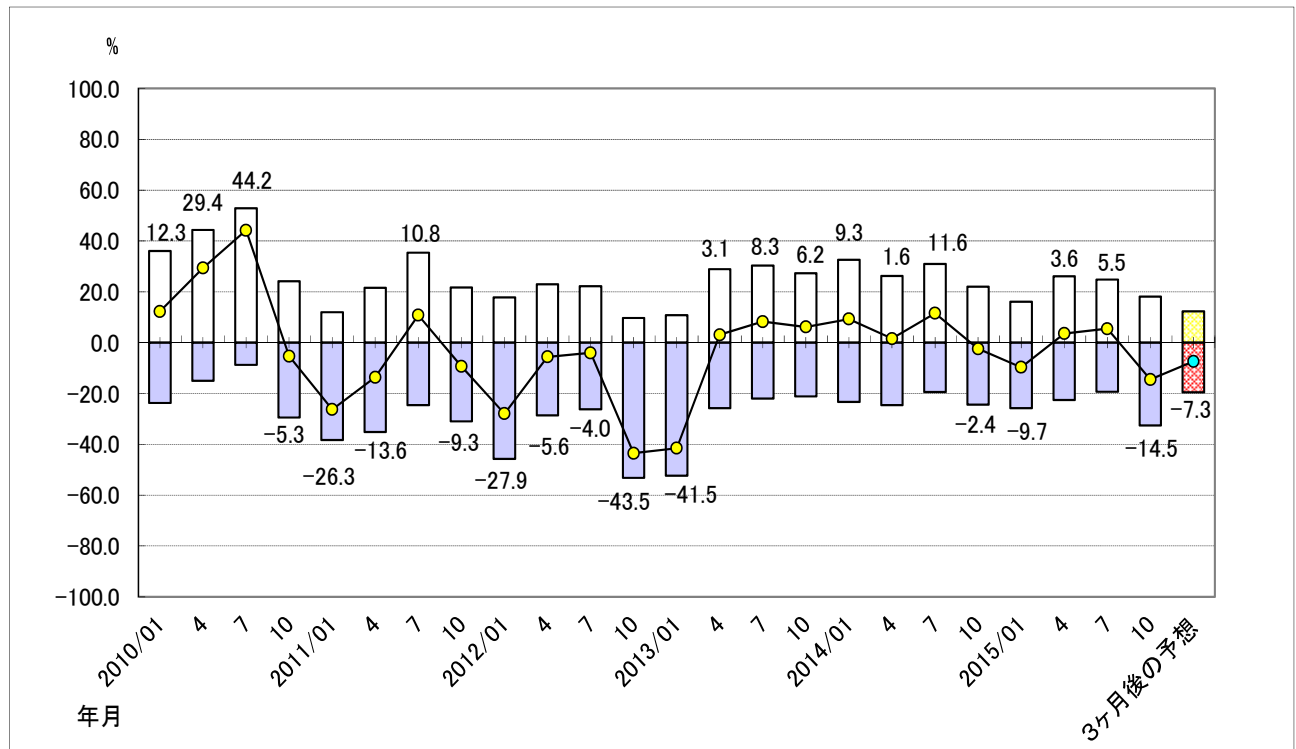
表－3

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		138	18.1	49.3	32.6	-14.5	138	18.8	43.5	37.7	-18.9	138	12.3	68.1	19.6	-7.3
規模	1～29人	77	16.9	51.9	31.2	-14.3	77	15.6	51.9	32.5	-16.9	77	7.8	71.4	20.8	-13.0
	30～99人	44	18.2	38.6	43.2	-25.0	44	22.7	29.5	47.7	-25.0	44	18.2	61.4	20.5	-2.3
	100人～	17	23.5	64.7	11.8	11.7	17	23.5	41.2	35.3	-11.8	17	17.6	70.6	11.8	5.8
中分類	金属製品製造業	19	15.8	47.4	36.8	-21.0	19	10.5	42.1	47.4	-36.9	19	5.3	84.2	10.5	-5.2
	一般機械器具製造業	38	21.1	44.7	34.2	-13.1	38	23.7	42.1	34.2	-10.5	38	15.8	55.3	28.9	-13.1
	電気機械器具製造業	30	10.0	53.3	36.7	-26.7	30	13.3	46.7	40.0	-26.7	30	10.0	80.0	10.0	0.0
	輸送用機械器具製造業	16	25.0	50.0	25.0	0.0	16	25.0	37.5	37.5	-12.5	16	12.5	62.5	25.0	-12.5
	精密機械器具製造業	9	11.1	55.6	33.3	-22.2	9	11.1	66.7	22.2	-11.1	9	22.2	66.7	11.1	11.1

製造業の受注状況DIの推移

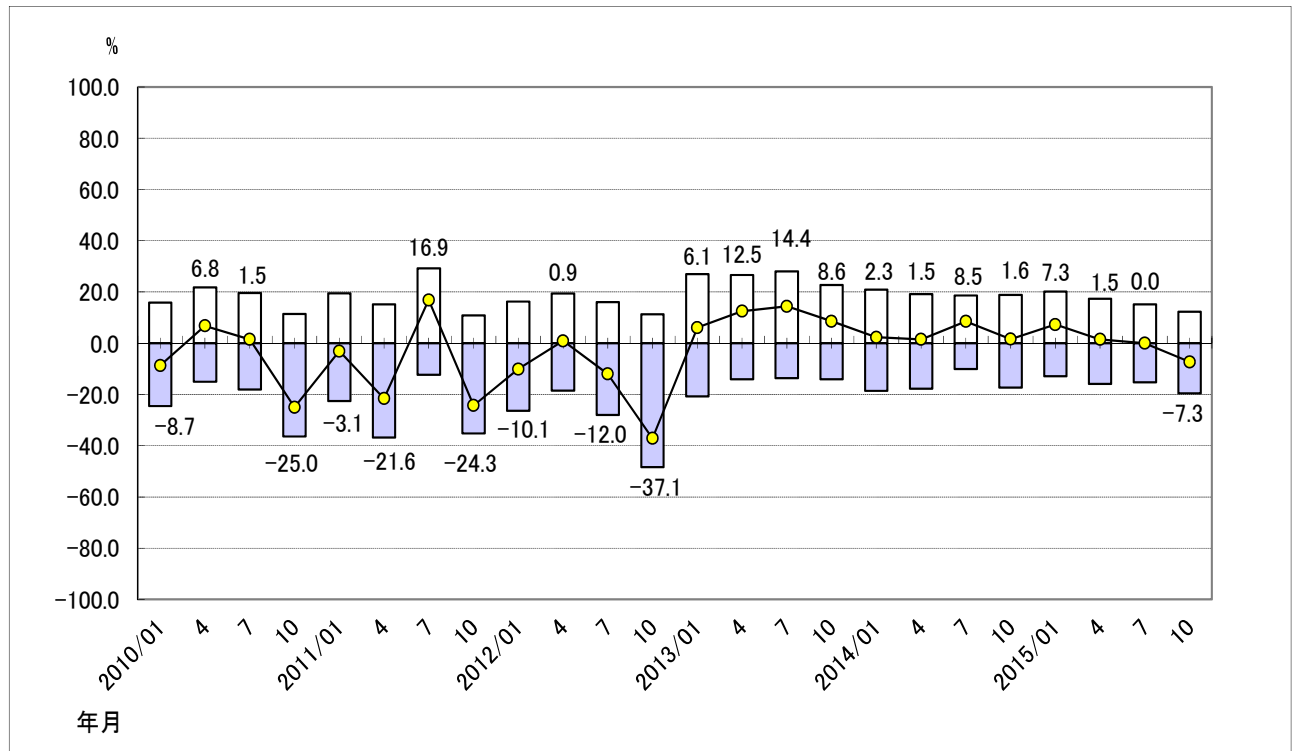
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



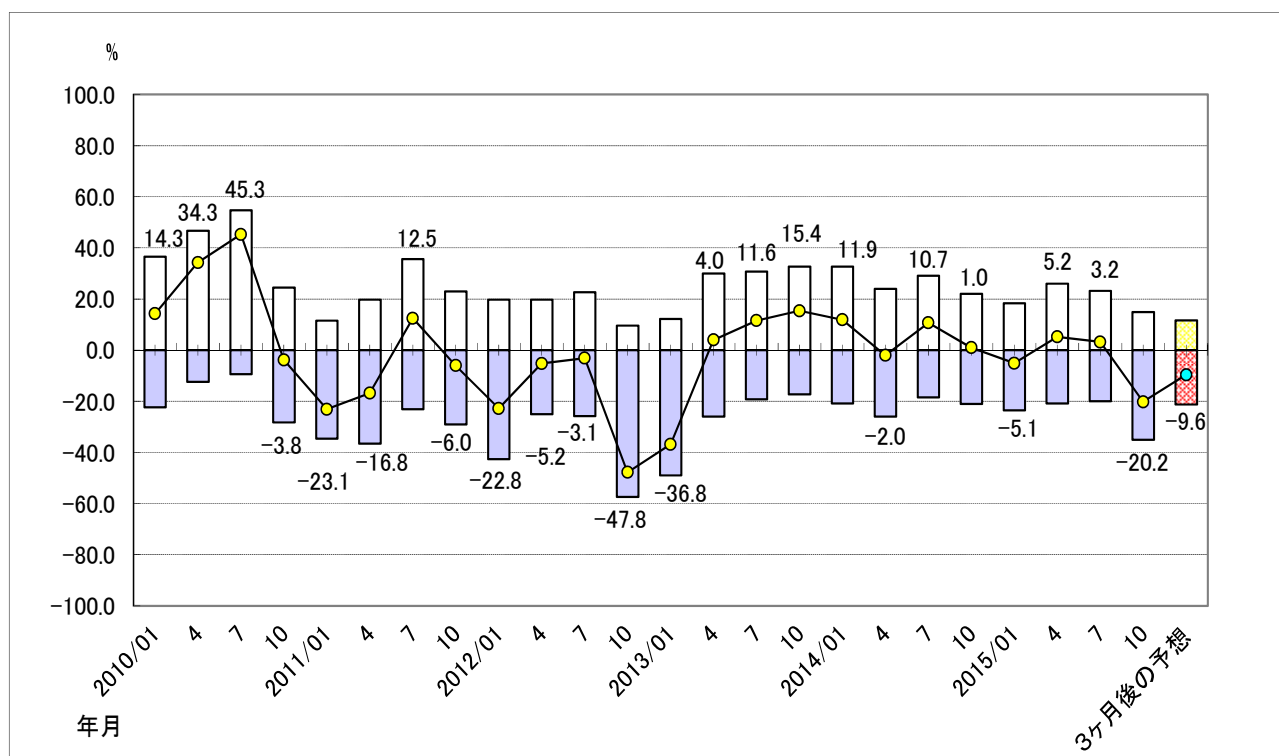
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



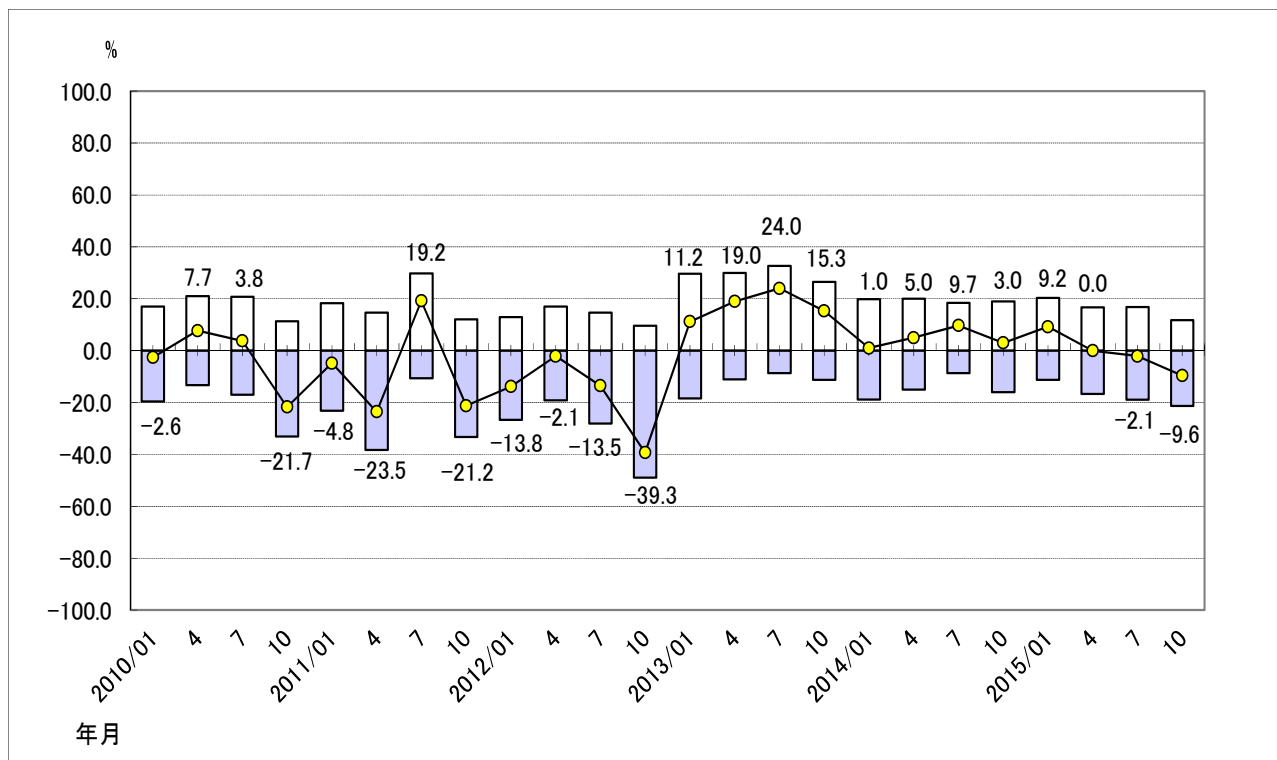
●製造業 主要 5 業種:「3 ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要 5 業種:「3 ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、前回の0.0から6.5と改善し、「前年同期比」では前回の12.5から29.0、「3ヶ月後」の予想も前回の3.2から9.7へ改善している。収益性DIは「前年同期」比で前回の28.1から25.8で、ほぼ横ばいとなっている。「3ヶ月前」比も前回の0.0から3.2、「3ヶ月後」の予想も前回の3.1から12.9へ改善している。ただ、パート、アルバイトの確保は依然困難な状況が続いている。

- 食料品 生鮮野菜、葉物関係が高値で推移した。鍋やおでんの食材や旬の果物は好調だった。加工肉の発がん性問題で、歳暮商品への影響を懸念する企業もある。
- 衣料品 月の前半は伸縮性があってシワになりにくく、洗ったり重ね着ができるカットソーのTシャツなどが好調で、後半からはコートやダウンジャケットが動き出した。
- 自動車 長野県内の10月の新車新規登録・届出台数は登録車が4,670台となり、前年同月比で2ヶ月ぶりに減少した。軽自動車は3,814台で10ヶ月連続減少した。
- 家電店 パソコンは販売価格が下がりず、周辺機器を含めた販売状況は低調だった。
- ホームセンター 気温が高く、秋冬物より屋外での園芸用品や補修用品に動きがあった。

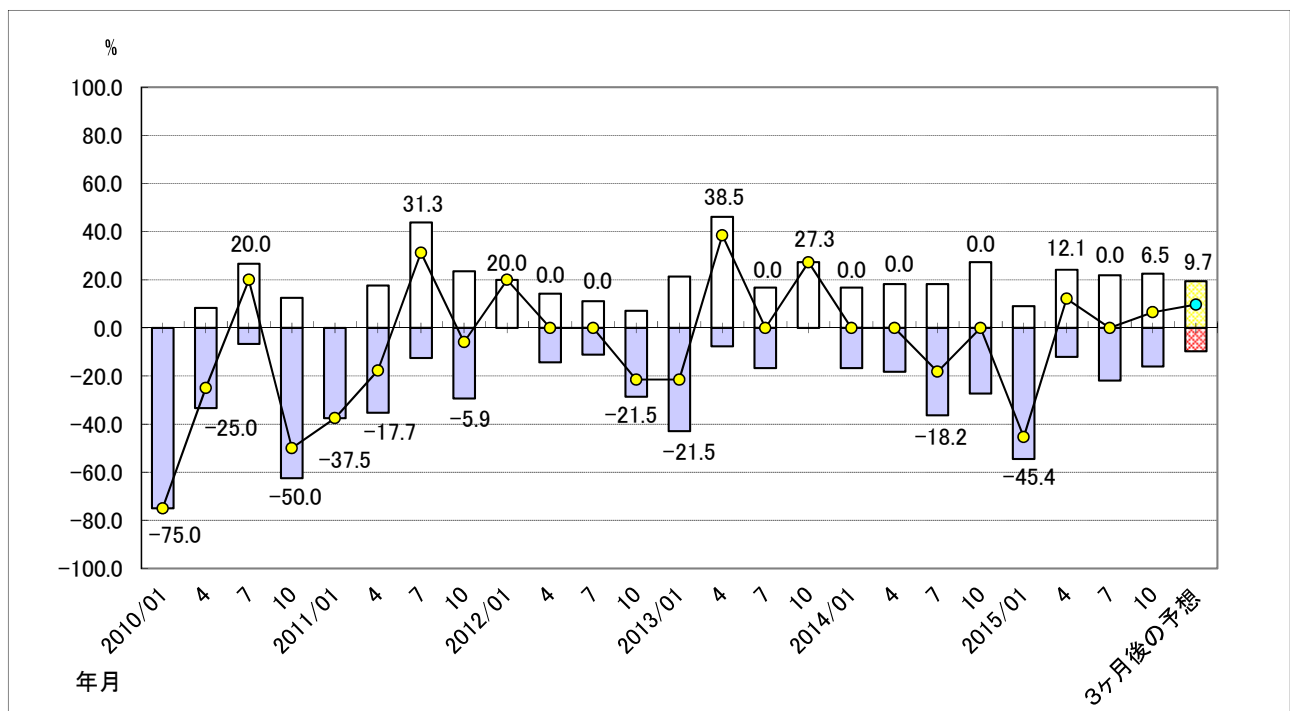
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	31	22.6	61.3	16.1	6.5	31	38.7	51.6	9.7	29.0	31	19.4	71.0	9.7	9.7
客単価	31	6.5	71.0	22.6	-16.1	31	25.8	61.3	12.9	12.9	31	9.7	77.4	12.9	-3.2
来店客数	31	19.4	64.5	16.1	3.3	31	25.8	51.6	22.6	3.2	31	12.9	77.4	9.7	3.2

●商業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期」比の業況判断DIは 52.9 で、前回調査時の 18.8 から改善し、宿泊客数DIも 25.0 から 47.0 へ改善しているが、客単価DIは前回の 12.5 から 5.8 へ悪化した。「3ヶ月後」の業況予想DIは△29.4 で前回の 18.7 から悪化した。材料などの費用負担が上昇した企業は「3ヶ月前」比で 58.8%、前年同期」比が 52.9%で、「3ヶ月後」も 41.2%が上昇を予想している。天候不順だった前年同期に比べ、今年の紅葉シーズンは大雨や台風がなく、週末の天候に恵まれた。

- 上諏訪温泉 10月の宿泊客数は前年同月比 100%～150%台と好調な施設が多かった。2～4人の宿泊客が全体の半数近くを占めた。インバウンドも依然好調に推移し、秋の立山黒部アルペンルートの観光客も流れ込んだ。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 今年は紅葉が早くから始まり、中間の冷え込みがなく、見頃の期間が長かった。各地の施設では紅葉目当ての行楽客や中高年のトレッキング客が増加した。小学生の林間学校や企業の合宿研修を取り込んだ施設もある。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた 10月の参拝者数は約 56 千人と、前年同月比約5千人の増加(9.7%)となった。

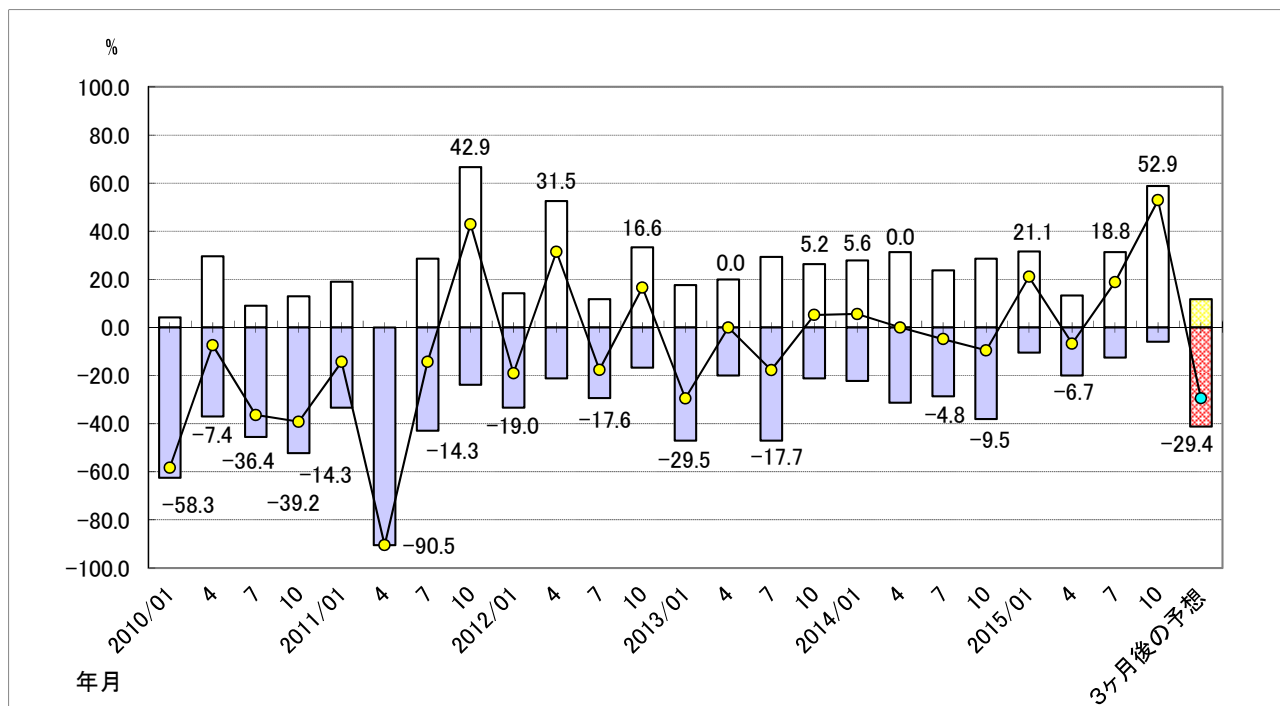
業況、売上、宿泊客

表－5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	17	29.4	47.1	23.5	5.9	17	58.8	35.3	5.9	52.9	17	11.8	47.1	41.2	-29.4
客単価	17	5.9	82.4	11.8	-5.9	17	17.6	70.6	11.8	5.8	17	11.8	52.9	35.3	-23.5
宿泊客数	17	29.4	35.3	35.3	-5.9	17	58.8	29.4	11.8	47.0	17	11.8	35.3	52.9	-41.1

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフー9



3.建設業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で6.6と前回調査時の11.1から悪化し、「前年同期」比も△20.0で前回の△11.1より悪化した。受注状況DIは「3ヶ月前」比で6.6となり、前回の0.0から改善しているが、「前年同期」比では△26.6と前回の△5.5より悪化している。収益性DIの「3ヶ月前」比は△6.6で前回の0.0から悪化した。「3ヶ月後」の業況予想は△6.7で、前回の16.7から悪化している。企業によって受注状況などに格差も見られる。

●建築工事

諏訪地方の平成27年9月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市19戸、諏訪市19戸、茅野市16戸、諏訪郡16戸の合計70戸だった。持家は前年同月比で10戸減少し、貸家も4戸減少している。長野県全体の9月の新設住宅着工戸数は824戸で、前年同月比8.7%減少した。

●公共工事

平成27年10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所10件167百万円、林道治山工事関係1件4百万円、県警察1件8百万円だった。平成27年4月～10月の累計は89件、2,908百万円で、前年同期比で件数は16件増加し、契約金額は1,135百万円減少(△28.1%)している。市町村からの受注工事は前年同月比で、件数は22件減少し、契約金額も103百万円減少(△15.7%)した。御柱祭を来年に控え、道路補修工事などが目立ってきている。

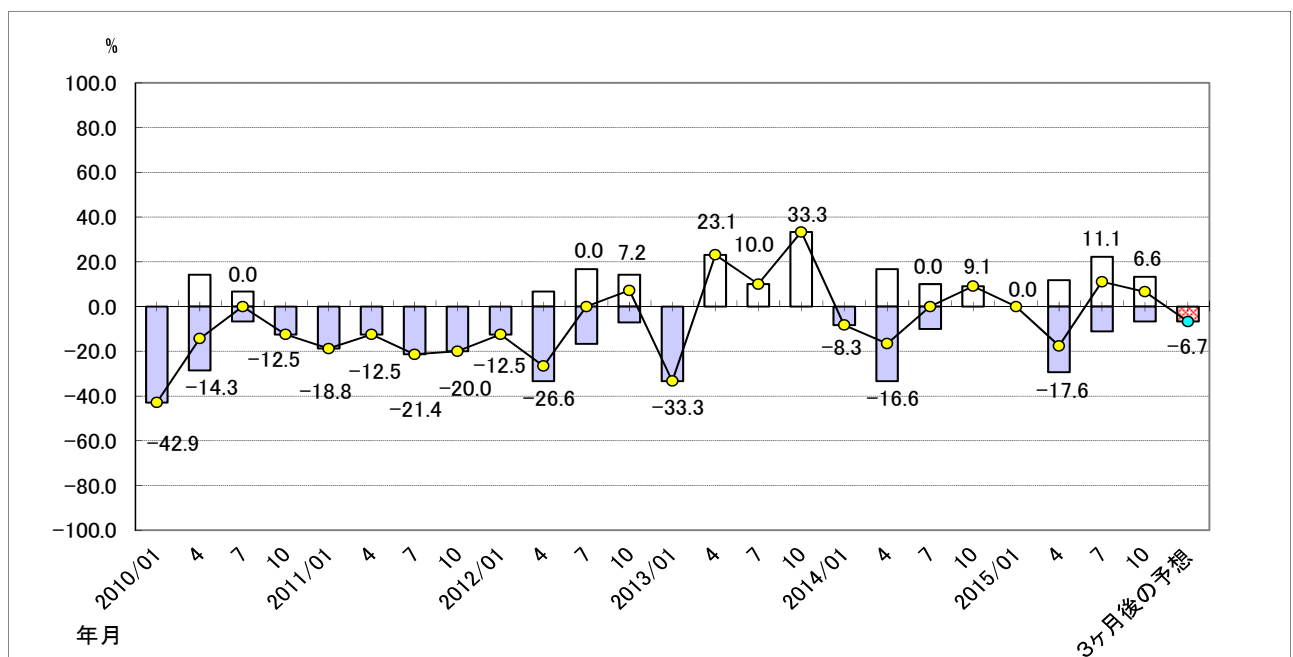
業況、受注状況、外注発注量

表－6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	15	13.3	80.0	6.7	6.6	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	0.0	93.3	6.7	-6.7
受注状況	15	33.3	40.0	26.7	6.6	15	6.7	60.0	33.3	-26.6	15	6.7	80.0	13.3	-6.6
外注発注量	15	33.3	53.3	13.3	20.0	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	20.0	66.7	13.3	6.7

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ－10



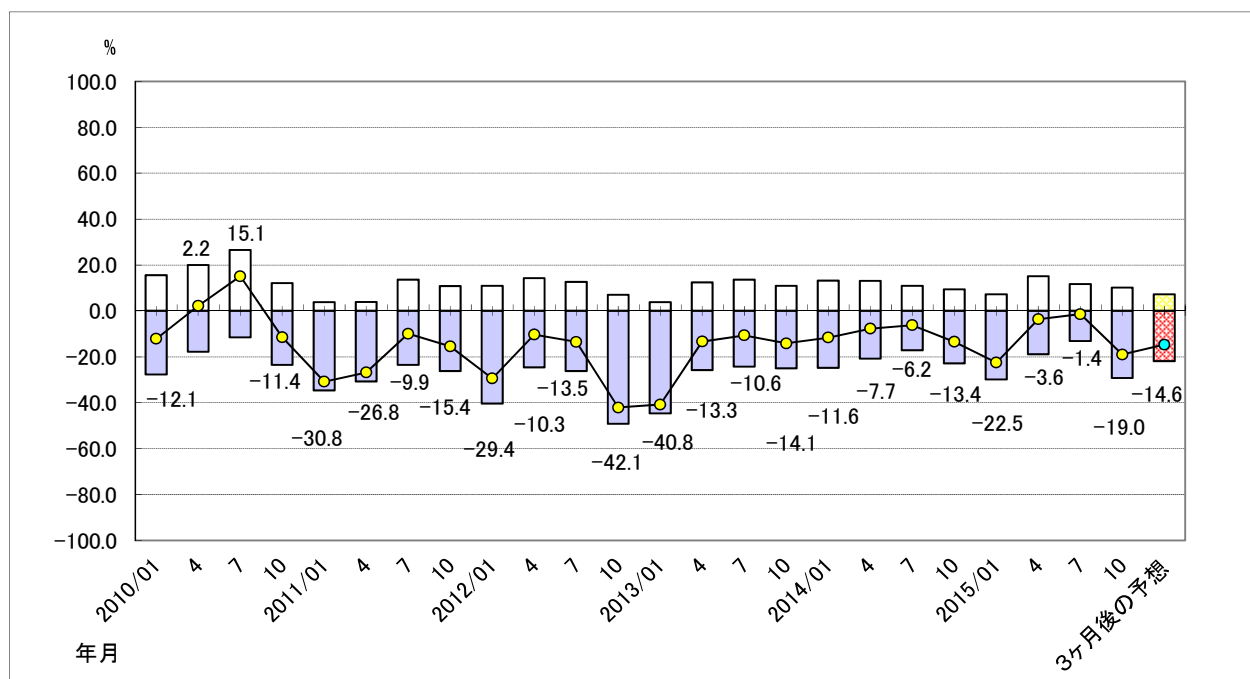
4.収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業12.0%、「悪化」企業23.5%で、同DIは△11.5と前回調査時の1.9から悪化した。「前年同期」比は△14.0で、前回の△1.4から12.6ポイント悪化した。「3ヶ月前」と比べた製造業は△19.0で前回の△1.4から17.6ポイント悪化し、非製造業も4.8で前回の9.1から悪化している。原材料の高騰による収益圧迫の声は依然多く、製造業ではコストダウン要請も見られる。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が△14.5で前回の0.7から15.2ポイント悪化し、非製造業は△7.9で前回の4.6より悪化している。回答全社では△12.4で、前回の1.9から悪化している。

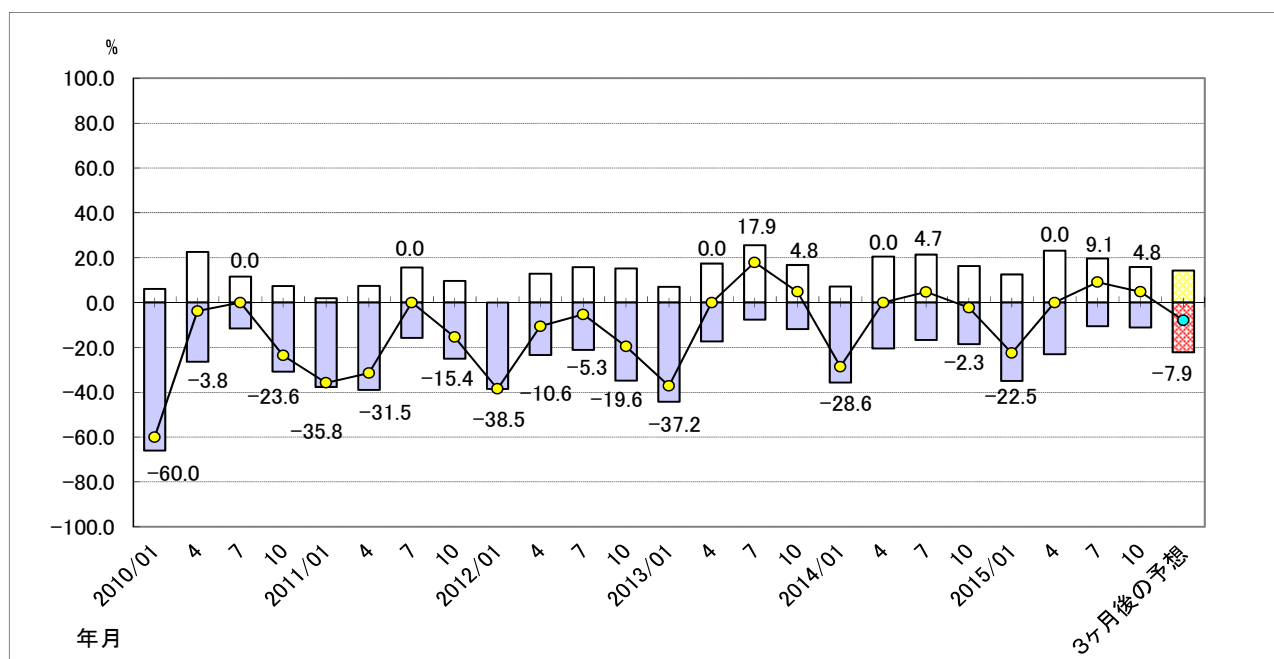
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は、売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と売り上げ減少③建設業は、労働力確保と売上減少④観光・サービス業は労働力確保、売上減少、人件費となっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	89	65	13	6	5
単 価 引 下 げ	24	20	2	1	1
競 争 激 化	53	38	12	3	0
資 金 繰 り	37	26	5	2	4
人 件 費	40	25	5	5	5
労 働 力 確 保	70	39	15	8	8

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	1.33 倍	0.19 ポイント
手形交換高 【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	4,433 枚	△1,591 枚
	金 額	6,577 百万円	△2,422 百万円
	うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚
		金 額	0 千円
電力使用量 【10月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	39,840 MWh	0.1 %
	高压電力計	85,960 MWh	△4.5 %
	合 計	125,800 MWh	△3.1 %
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		931 件	△2.9 %
新設住宅着工戸数【H27. 4～9月】(諏訪管内)		541 戸	2.3 %

【TPP の影響】

諏訪地方の企業の今後に影響も考えられる環太平洋経済連携協定(TPP)が 10 月、関係国の間で大筋合意され、当金庫と取引がある諏訪地方の企業に受け止め方をヒアリング調査した。

TPP は今後の動きや内容にまだ不透明部分がある上、諏訪地方には国内や中国向けで、関税や参加国にかかわらない企業も多く、具体的な取り組みをする企業は少ない。その中で、製造業では、自動車等の海外販売が増加することで、国内の機械受注が増加する可能性があるとして、製造基盤や営業体制の整備を進めたり、海外の販売拠点を確立し、定期的な海外企業との商談を計画する企業がある。反面、円安時のように大手企業は恩恵を受けるが、下請企業まで浸透しないとする見方や商社の利益が増加するだけという声もある。食品製造では原料の値下がり期待するものの、業界全体の低価格化を懸念するジレンマもある。

非製造業では、商業で農畜産物や海産物の価格低下が、仕入れコストの削減につながる期待感がある一方で、国産品の使用に力を入れ、安価な輸入製品利用店との差別化を図る方針の企業がある。観光業は、コスト削減と外国人観光客の増加が期待されている。建設業は、資材価格の低下や製造業の活発化による工場建設など中、長期的効果に期待する声があるが、現状では不透明感が強い。

総体的に現段階で効果の判断には至らず、今後を注視し、正式合意までに分析を進める動きとなっている。